

### 第十三章 總括

以上各章ノ大要ヲ總括スルニ左ノ如シ。

- 一、本邦ニ於ケル大正七年秋季ノ流行性感胃ノ流行系統ニ就テハ、同年春季ニ於ケル同症流行ノ復活セルモノナルヤ或ハ別個ノ流行ニシテ海外諸邦ヨリ傳播セルモノナルヤ否ハ不明ナルガ如シ。
- 二、神奈川縣ニ於ケル流行性感胃ノ流行ハ合衆國加奈太等ヨリ横濱港へ入港セル船舶ニヨリテ病原ヲ輸入セラレタルカノ系統ヲ有スルモ明カナラズ。
- 三、本縣ニ於ケル大正七年十月ヨリ大正八年三月末日ニ至ル罹患者總數ハ二十八萬七千五百九十九名、死者五千二十一名ニシテ、人口百ニ對スル罹患者率二・一七六%、患者ニ對スル死亡率一七・五%ナリ。
- 四、又本縣ニ於ケル大正八年十二月ヨリ大正九年六月末ニ至ル所謂「後流行」ニ於テハ罹患者總數五萬六千九百九十二名、死亡者二千三百九十八名ニシテ患者ニ對スル死亡率四・二〇%ナリ。
- 五、即チ「後流行」ニ於テハ、死亡率約二四・五%ヲ増加セリ。
- 六、横濱市全體トシテノ流行性感胃流行ノ推移ハ一回ノ流行期ニ約三週日ノ先驅期ヲ經テ猖獗期ニ入り約三週日ヲ持續シ、衰退期ハ其ノ後四週日餘ニ及ブモノ、如シ。
- 七、二回三期ニ亘ル各流行ニ於ケル肺炎死亡數ハ初回ヨリ二回三回ト經過スルニ從ツテ増強ヲ示セリ。

八、大正七八年ニ於ケル診療班ノ診療患者總數五千九百九十四名、大正九年ニ於テハ九千四百一十一人ナリトス。

九、大正八年二月ヨリ大正九年六月マデ本縣創製ノ「バ氏菌ワクチン」ヲ配布スルコト四十萬一千餘疔ニ及ブ。

十、流行性感胃ノ病原ヲ「バイフェル氏インフルエンザ菌」ト認ム。

十一、「バイフェル氏菌感作ワクチン」ノ反應ハ調査人員二十二萬千八百六十八人中ニ有反應者僅ニ〇・七七%ノ少數ナリ。

十二、集團生活者紡績工場ニ於ケル「バ氏菌感作ワクチン」豫防接種成績「後流行時」ハ其ノ罹患者率ニ於テ接種者一二・二三%、非接種者一五六・六%ヲ示ス。

十三、同ジク罹病ヲ免レタルモノヲ概ルニ接種者八七・四六%ニ對シ非接種者八四・三三%ノ比ナリ。

十四、同ジク患者紡績工場ニ對スル死亡率ハ「ワクチン」接種者ニ於テ三・九四%、非接種者ニ於テ六・八六%ヲ示ス。

十五、然レドモ同ジ集團生活者紡績工場ニ於テ大正七八年ノ流行時ニ罹病セザルモノニシテ大正九年春季ニ胃サレタル者ノミヲ比較スレバ「ワクチン」接種者ノ罹患者率一一・三五%、非接種者一四・五一%ヲ示ス。

十六、而シテ同ジク罹病ヲ免レタルモノハ接種者七三・八七%、非接種者六四・五一%ノ比ナリ。

十七、「バ氏菌感作ワクチン」ノ治療的應用ニヨリ肺炎併發患者ノ死亡率ヲ一七・二九%減少セシム

ルコトヲ得ベシ。

十八又ワクチン注射ニヨリ治療日數ヲ約十日間短縮セシメ、合併症ヲ防止シ、且ツ自覺的症狀ヲ  
緩解セシム。  
(大正九年八月三十日脱稿)

引用書目

省略

防疫官 北野豊治 郎 編述  
防疫官 補丹野赤衛

附 録

大正八年三月八日北里研究所研究會及同年四月四日衛生學會ニ於テ本縣衛生課長北野豐治郎氏ノ試ミタル演說ノ要旨

流行性感胃ニ對スル豫防注射並ニ治療上ノ實驗

防疫官 北野豐治郎述

余ハ本問題ヲ論ズルノ前提トシテ先ヅ我神奈川縣ノ流行狀態ト系統トニ就テ說述セント欲ス。

(一) 神奈川縣ニ於ケル流行性感胃ノ流行狀態

昨年十月九日小田原中學校ニ於テ一時ニ九名ノ生徒ガ一種ノ感冒ニ侵サレ欠席シタルニ端ヲ發シ其後四日ノ間ニ百有餘名ノ患者ヲ發シ同時ニ同所ノ小學校及ビ工場等ニ於テ同一患者ヲ發スルニ至リ次テ足柄下郡ハ勿論他郡市ニ亘リ一ヶ月間ニ二萬人餘ノ患者ヲ算スルニ至レリ而シテ横濱市ニ於ケル流行狀態ヲ見ルニ横濱市ハ人口四十五萬ヲ有シ一日平均死亡者二十二三人ナルニ十月上旬ヨリ肺炎死者ノ數ヲ著シク増加シ十月下旬ニ於テ一日ノ平均死亡數十月以前ノ一日平均死亡數ニ倍加スル狀況トナレリ。

縣下ヲ通ジテ昨年十月上旬ヨリ本年二月ニ至ル間ニ患者二十七萬八千二百八十四人ヲ出シタルハ即チ神奈川縣總人口百三十餘萬人ニ對シ約四分ノ一ハ此ノ流行ニ侵サレタル譯ニテ又死亡四千七百六十四人ニシテ患者百人ニ對シテ約二人ノ死者ヲ出シタル次第ナリ。

(二) 流行性感胃ノ傳染系統

附 錄

今回ノ流行性感胃ハ在來ノモノナルカ將又歐米ニ於ケル「スバニシ、インフルエンザ」又「グリ  
ーブ」ナルカ、余ハ流行ノ状態ヨリ之ヲ考ヘ「スバニシ、インフルエンザ」又「グリーブ」ノ流行ハ昨年  
五月瑞西ノ軍隊内ニ小流行ヲ來シ一時終熄シ更ニ七月ニ於テ大流行ヲ來タシ當時ノ記録ニ  
由レバ既ニ西班牙國民ノ多數ハ本病ニ侵サレ又參戰各國ノ軍隊内ニモ流行シツ、アルモノ  
、如シト謂ヘリ。超ヘテ九月ニ至リ北米合衆國ノ衛生局長「パブリックヘルスサーピス」ノ「サヂ  
ヤンデエネラール」ハ各洲ノ衛生當局ニ訓電ヲ發シテ流行性感胃流行ノ有無ヲ電報報告スヘ  
キ命令ヲ發シ其結果各洲ヨリノ報告ニ由レバ「マサチユセツ」ハ最も早ク八月既ニ多數ノ患  
者ヲ出シ九月十四日前ト同十四日ヨリ一週間毎ノ流行状態ヲ色分ニテ區別スレバ此圖ニ示  
ス如ク(圖面省畧)米國東海岸ノ各洲ヨリ墨西哥灣ニ沿フテ西ヘ西ヘト流行蔓延セルコト明カ  
ナリ。九月初ヨリ僅カニ一ヶ月間ニ如此米國四十八洲ハ悉ク侵サレザル洲ナシト云フ状態ト  
ナレリ。

如此實況ナルヲ以テ勢ヒ米國トノ交通船舶ノ往來緘ルガ如キ橫濱港ヲ抱容スル我神奈川縣  
ニ此流行ノ傳播スルコトハ當然ノ歸結ト信ズ。果セル哉米國ヨリ橫濱ニ入港セン處ノ米國通  
ヒノ船舶中ニ九月上旬ヨリ死者及患者ヲ持テ來リシコトハ神奈川縣ノ記録ニ徴シテ明カナ  
リ。  
之ニ由リテ之ヲ觀レバ歐洲ノ戰場ヨリ米國ヲ東ヨリ西ヘ西ヘト吹キ荒シタル風ハ遂ニ我國  
ノ東海岸ニ吹キ寄せタルコト明カナリ。

### (三) 豫防施設

米國ニ於テモ我國ニ於テモ「ガーゼマスク」合嗽藥、日光消毒ノ利用ニ過ギズ。米國ニ於テハ公衆  
群集ノ場所ニ法令ヲ以テ制限ヲ加ヘタレドモ、余ハ尙一段合理的ニシテ的確ナル豫防方法ヲ  
案出セントシテ豫防注射ニ到達セリ。

豫防注射ニ就キ先ヅ研究スベキハ本病ノ病原問題ナリ。即チ昨年來歐米及我國一部ノ學者間  
ニ於テ異論アル「バイエル氏菌」ガ果シテ本病病原ナルヤ否ニアリ。

今之ヲ別表記載スル我神奈川縣衛生試驗場ノ試驗成績ニ徴スルニ凝集反應並ニ補體結合試  
驗ニ於テ其ノ反應低度ナリト雖モ、感染防禦試驗ニ於テハ十分ノ六ヲ助ケ、又恢復期患者ノ血  
清ニ對スル凝集反應及白血球減少ノ事實等ニ徴スレバ「バイエル氏菌」ノ本病病原タルコトハ今ヤ疑  
ヲ挾ムノ餘地ナシ。

又本縣鎌倉師範學校及ビ小田原中學校ニ於テ昨年感染セル生徒ノ大部分ハ本年ノ流行ニ感  
染ヲ免レタルノ事實ニヨリ、即チ後天性免疫ヲ完成スルモノナルコトヲ認メタルヲ以テ茲ニ  
本菌ニ基ク感作「ワクチン」ノ製造及豫防注射ノ實行ニ着手セリ。

### (四) 豫防注射ノ成績豫防注射液ハ「c.c.中ニ菌量〇二粒ヲ含有ス」

今日迄ニ「ワクチン」ヲ配布シタルハ縣下ノ開業醫、汽船會社、學校、衛生組合、工場等約二萬二千餘  
人、其ノ他々府縣ニモ福島、山梨、山口、三重、北海道ノ病院開業醫等ニ少數ノ分與ヲ爲セリ。

豫防注射ノ反應ノ調査ヲ爲セルハ一萬三百人ニシテ之ヲ業體別ニスレバ官公吏其ノ家族學  
校、病院一般縣民、勞働者等ノ各階級ニシテ合計一萬三百人ナリ。此ノ一萬三百人中ニテ有反  
應者ハ二〇七%強ナリ而シテ局所反應ト全身反應トニ別テバ局所反應ハ四十五人ニシテ全

身反應ハ二百八十四人トス。又反應ヲ細別スレバ疼痛ノアリシ者四十二人、腫張三人、惡寒ノアリシ者三十一人、輕熱者百二十人、重熱二十六人ナリ。頭痛ノアリシ者八十二人、倦怠ヲ覺ヘタル者十四人、食欲不振ヲ訴ヘタル者三人、嘔氣ヲ催シタルモノ三人、睡眠障害ヲ來セル者四人、下痢ヲ起セル者一人ト云フ割合ニシテ有反應者二百八十五人ニ對シテ此局所反應ト全身反應トノ計ハ三百二十九トナリ其ノ數ノ合ハザルハ一人ニシテ局所反應ト全身反應トヲ有スル等ノ關係ヨリ此相違ヲ來セルモノナリ。而シテ此等反應ハ局所反應、全身反應共ニ輕微ニシテ恰モ虎列刺ニ對スル虎列刺感作ヲクテ豫防注射反應ト何等異ナル所ナシ。故ニ一般普及ニハ至極便利ナリト信ズ。又茲ニ重熱トアルハ豫防注射前ノ體溫ト注射後ノ體溫ト二度以上ノ差ヲ呈スル者十人アリシガ之ハ何レモ注射前ニ輕度ノ感冒ニ侵サレタル者及女子ノ月經中ノ者等ナリ。何レモ極メテ短時間ノ反應熱ニシテ之カ爲メ業ヲ休ミタルモノハ僅カニ二三人ニ過ギザリキ。

又豫防注射ノ效果ニ就テハ別表略備考欄記載例ノ如キハ其效果ノ具体的ナルコトヲ言明スルニ足ルモノト信ズ(第十一章ノ諸實例参照)

(五) 治療上ノ成績

治療ニ用ヒタル「ワクチン」モ亦豫防注射ノ場合ト同様一c.c.中ニ菌量〇・二瓩ヲ含有スルモノヲ一回一〇c.c.ヲ注射シ一日若ハ二日ヲ經過シテ又一〇c.c.ヲ注射セリ。場合ニ由リテハ之ヲ數回反覆セルコトアリ。治療經過中ニ五回六回ノ注射ヲ爲スモ何等妨グナシ。

「ワクチン」療法ヲ施シタル患者ノ總數八十七例ニシテ其ノ内肺炎ヲ起ササル者四十九例、肺炎

ヲ續發シタル者三十八例ナリ。此ノ統計材料ハ日本海員救濟會附屬病院四例、矢崎病院十二例、野方病院二十七例、橫濱監獄四例、真金町病院四例、其ノ他三十六例ハ一般開業醫ニテ「ワクチン」療法ヲ爲シタルモノ、患者ヲ此統計材料トセルモノナリ。茲ニ附言ヲ要スルハ三十六例中ニハ山口縣開業醫ノ報告二例、山梨縣ノ開業醫ノ報告五例アリテ奏効顯著ト認ムル旨ノ報告等アリ。而シテ此等ノ「ワクチン」注射ヲ爲セル後ハ一切解熱藥ヲ用ヒザルコト、セリ。

普通治療即チ從來ノ對症療法ニ由リテ治療シタルモノハ近藤病院、渡邊病院等ノ患者一千二百五十九人ニシテ其内肺炎ヲ起セシ者二百七十人、肺炎ヲ起ササル者九百八十九人ヲ統計ノ基礎トセリ。

今此ノ死亡率ヲ見ルニ肺炎ヲ續發セザル患者ハ普通治療ニヨル者モ「ワクチン」治療ニヨル者モ何レモ一人ノ死亡者ヲ出ササルヲ以テ此死亡率表ヨリ除去シ、肺炎ヲ併發シタル患者ノミヲ此表ニ示セリ。此ノ割合ヲ見レバ普通治療ハ二三%強ニシテ「ワクチン」治療ハ五〇%強ノ死亡率ヲ出セリ。

又治療日數ノ比較ヲ見ルニ肺炎ヲ起シタル三十七例ニ就テハ普通治療ニ由ル治療日數平均數十七日三分ニシテ之レガ「ワクチン」治療ニ由ルモノ三十六例ノ平均治療日數ハ十日強又「ワクチン」注射後全治迄ノ平均日數ハ七日強ナリトス。

肺炎ヲ併發セザル流行性感胃ノミニ就テ二十例ノ平均治療日數ハ十五日強「ワクチン」治療ニ由ル四十九例平均七日強「ワクチン」注射ヨリ全治ニ至ル平均日數四日強ナリ。若シ夫レ注射後ノ經過ニ至テハ一日若クハ二日後ニ解熱シ精神ノ爽快ヲ覺ヘ且ツ一般症狀モ佳良トナリ、肺

炎併發セルモノハ「ラツセル」ノ減退等ヲ來シテ治療ニ傾ケリ。之レガ詳細ニ就テハ日本ノ醫界  
 第二百七十六號ニ野方次郎氏ノ記載アルヲ以テ省畧ス。是ニ由テ之ヲ觀レバ「ワクチン」治療ニ  
 由リ著シク死亡率ヲ減ジ又平均治療日數ヲ短縮スルコト明ナリ。  
 之等ノ實驗ハ僅カニ八十七例ノ小實驗ナレドモ余ハ眞理ハ一ナリト信ジバ「氏菌感作」ワクチ  
 ンヲ流行性感胃ノ豫防及治療ニ向テ治ク之ガ使用ヲ推奨シテ止マザルモノナリ。  
 (別表ハ第十一、十二章中ノモノト重複スルニヨリ之ヲ省略ス)

大正九年十一月五日印刷  
 大正九年十一月十日發行

神奈川縣警察部

印刷者 横濱市相生町三丁目五十一番地  
 大橋 徳 壽

印刷所 横濱市相生町三丁目五十一番地  
 大橋活版印刷所  
 電話本局二千七百二十番

→(非賣品)←

